

【様式①】令和4年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立常磐小学校

校長名 安田 幸典

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
学校・家庭・地域との協働による指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの教育活動を検証しつつコミュニティスクールにより効果的な運営・実施を図る。</li> <li>「常磐小学校いじめ防止基本方針」に基づき、迅速かつ適切な対応をするとともに、「相手を思う」(生命尊厳理解と相手理解)学びを進める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の実態を地域と共有しながら、「あいさつ」の啓蒙や「ふるさと先生」の発掘・参画を行うことができた。</li> <li>保護者面談を重ねることで、いじめだけでなく、児童や保護者の困り感に迅速に対応することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校と連携した「あいさつ標語の取組」の成果が上がった。</li> <li>ここの「聞いてほしい」ボタンが押された場合は、きちんと聞いてやって欲しい。同時に、表情を見て子どもの気持ちをつかむことも大切に続けて欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ・スクールのより効果的な運営・実施を図る。</li> <li>今年度のあいさつの取組を一つのモデルとして、児童の課題を地域と共有し、具体的な取組へとつなぐ。</li> </ul>
学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程の編成と実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>「一斉・個別最適・協働」学習を効果的に構成し、主体的・対話的で深い学びを充実させる。また、学習の高まりにつながるICT機器の活用に向けて、職員の指導力向上を図る。</li> <li>生命の尊厳や人間関係を学ぶカリキュラム・マネジメントを進める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科担任制で専門性の高い授業を行うことにより、教科の面白さを感じる声が児童や保護者から上がっている。</li> <li>職員研修だけでなく、職員同士が自主的にICTの活用情報を交換し、ICTを授業に生かす方法を増やしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(教科担任制)授業者が変わっても、よい雰囲気の中、わからないことが「わからない」と言える授業が行えている。</li> <li>ICTの活用と同時に、辞典を用いて学ぶ授業が行われていることがよい。目的や用途に応じてICTを活用したり、弊害について学んだりしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究推進委員会が中心となり、「一斉・個別最適・協働」学習を効果的に構成し、工夫改善を重ねることにより、主体的・対話的で深い学びを充実させる。</li> <li>「ここからが、わからない。」と言える授業づくり、学級づくり、人間関係づくりをしていく。</li> </ul>
幼保小連携や小中一貫の考えのもと、地域人材を活用した学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ふるさと先生」を招いて行うふるさと学習を充実させ、地域への愛着を深める。</li> <li>幼保小連携のもと、児童理解と保護者理解を通して、効果的なスタートカリキュラムを実施する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼保への授業公開(低学年)と、幼保参観を行い、児童の姿の成長を確認するとともに、支援の方法やつきたい力を共通理解することができた。</li> <li>小中サミット・小中あいさつ運動の継続や部活動見学など連携を図ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ふるさと先生」として地域の人材を活用することができた1年であった。</li> <li>授業後に公民館に立ち寄って感想を述べるふるさと先生が多く、「ふるさと先生」を通して学校の様子が、地域に伝わっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>常磐の「ひと・こと・もの」から学び提案するぎふMIRAI'S(生活科や総合的な学習の時間)を構築する。</li> <li>計画的に幼保小連携の取組を位置づけ、児童理解と保護者理解を通して、効果的なスタートカリキュラムを実施する。</li> </ul>
教育環境と学校財務環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険個所の早期発見に努め、迅速に修繕や市教委への要望提出を行うことにより、安心安全な教育環境をつくる。</li> <li>財務や納入金の適切な取り扱いがされているか常に確認し、より有効に運用する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの怪我を減らすために、靴箱の位置を変えたり壊れたビオトープを花壇にしたりするなど、素早く対応することができた。</li> <li>学校納入金や集金など適正な取扱いについては、保護者の信頼度が高い。(学校評価A+B=98%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの動線を考えて昇降口を移動させたり、校庭の木を刈り込んだりすることで怪我が減り、より安全な学校になっていった。</li> <li>地域の人々が安全に出入りできるよう、校門に反射板を貼るなどの対策を講じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険個所の早期発見を継続し、迅速に修繕や市教委への要望提出を行うことにより、安心安全な教育環境をつくる。</li> <li>財務や納入金の適切な取り扱いのための研修を行い、職員一人一人の適正な会計処理能力を高める。</li> </ul>
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学級へのCO2濃度計測定器設置や、毎月のシェイクアウト訓練の位置づけにより、命を守るために児童自らが考え行動する力をつける。</li> <li>PTAと連携し、通学路の安全確認や、災害時の引き渡しをより現実的なものにする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO2濃度計測定器を基準としての換気や、教室の出入り口での手指消毒、シェイクアウト訓練での避難姿勢が身につけている。しかし、形骸化している感はある。命を守るためには、どのように行動するよいか、状況に応じて考え行動する力をつけるための取組みが必要であると感ずる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学路の安全点検は、地域も行っているため、来年度の重点目標設定時に「地域」を位置づけるとよい。</li> <li>保護者の意見を、学校だけでなく、地域も受けることで、親を支える地域でありたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTAや地域とともに通学路の見直しを行ったり、災害時の対応を確認したりする。</li> <li>放送機器が使えない場合の命を守る訓練を行うなど、教師も児童も共に考えて行動できる訓練を位置づける。</li> </ul>

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/tokiwa-e/>